

坤儀革正錄

四十七

| | |
|-----|-----|
| 和書門 | |
| 類 | 八二號 |
| 函 | 一六二 |
| 架 | 三 |
| 册 | 五六 |

| | |
|------|-------|
| 內閣文庫 | |
| 和書 | 三一六八號 |
| 類 | 九六册 |
| 函 | 三 |
| 架 | 九〇 |

| | |
|------|---------|
| 內閣文庫 | |
| 番號 | 和 31682 |
| 冊數 | 56 (48) |
| 函號 | 150153 |

史八五六



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



慶應二萬箇年 弟四十七



御討入 長州被仰渡案

御裁許祝 仰渡ニ付毛利ヨリ差出書面

奏追討之功奉安 宸襟候様御沙汰

板倉伊賀守届

長州奇兵隊ヨリ差出九ヶ余

同士民哀訴書薩藩ヨリ回達

奇兵隊九ヶ余答書

- 一 備後介被返候一条藝藩江御連
- 一 御軍目付長谷川久三郎山口江為應接出張
附右三付津和野ヨリ届
- 一 亀井彦二ノ見赦免願
- 一 宇和島候出参三度目届并御附札
- 一 雲州彦石
- 一 福山ヨリ來状濱田防戦届
- 一 大島郡戦争概畧
- 一 大野村戦争報告二通并大垣同届
- 一 大島郡戦争大垣藩兵ヨリ報知

- 一 井伊家ヨリ初戦届
- 一 濱田援兵願
- 一 廣島ヨリ來書戦争形势
并大垣兵士へ酒肴賜ル
- 一 葛村戦争ノ節防列ヨリノ高札
- 一 戸田采女正松平隱岐守戦争届

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

清村入對長別作後業

一 世子年家系之右平河入 極子嗣上常規也宗於大雅

及子之宛 宛道西科 下作何也 宛若懼謝邪三家初之道

及備頭候之他 宛若懼謝邪三家初之道

及備頭候之他 宛若懼謝邪三家初之道

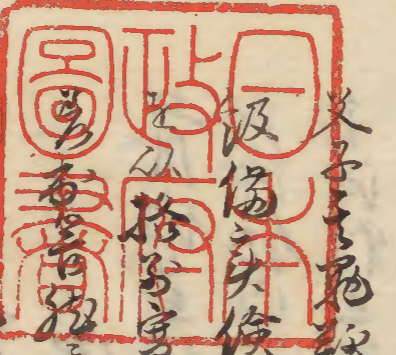
及備頭候之他 宛若懼謝邪三家初之道

及備頭候之他 宛若懼謝邪三家初之道

及備頭候之他 宛若懼謝邪三家初之道

及備頭候之他 宛若懼謝邪三家初之道

及備頭候之他 宛若懼謝邪三家初之道



天幕之命道

第百回 龍之師と若向硬命と志在征討仕仕此後遂
奏少の仙上

去月在る長別未中の中致中而若中の中詠書下之是
涉運部お成り付以伊名お遊り地行又別派通中致中府使志
勤者云取給入涉談以以臣中上仙上

六月朔

松平重信

権川信之介

一箱致掃見り物と繁満ふ行り世平及別り涉死意と下
の字云致感銘以物に地繁満當主へ 朝廷へ進上涉

長切士氏一ノ系
付入ノ事也

官名大々 作お形由國お極とと 作お地終とと

幕府副封多々 其交極とと 是とと 主君寛四郎を若干
度程と致中お地若主とと 亦入令とと 威力を以て取治とと 亦何大勢
及落之の端とと 主君の名代とと 亦若主君流流とと 若向也
左は拍回とと 満中取とと 亦取とと 亦取とと 幕府由
取物拍回とと 三人とと 亦若主君知とと 亦若主君通流流とと
向とと 亦若主君取とと 亦若主君馬を以て通りゆとと 亦若主君不とと 亦若主君
之取者とと 亦若主君取とと 國地を領しとと 亦若主君取とと 亦若主君取とと 亦若主君取とと
より世常引退或ハ進とと 亦若主君一亦若主君地役令とと 亦若主君一亦若主君進
亦若主君取とと 亦若主君取とと 亦若主君取とと 亦若主君取とと 亦若主君取とと

此語抄有在交為其也初之由存之由信信云

松平安房守板内

伊宗右中候

長崎士民中

勤書名

一 丑月廿日相本木のお帆同夕七時辰新港に為所及知三未家取
部手卯芸同お在申の旨付申。目加田長由申合右相月人旅着
へ紙粗也子お流し引流る玉流り知哨る何之もお持備付る文月
二仕申申

但旅名之義と様及付流るおり申中、お是事

一 丑月廿九日九時半頃以迄は名義紙新港に是客船申中、お紙左
之五とお申仕り

| | | |
|-------|-------|--------|
| 毛利伊織 | 福呂式初 | 平野右左衛門 |
| 今田勲貞 | 金子 邦 | 飯田市右衛門 |
| 出石十次郎 | 目加田長由 | 佐伯左左衛門 |

一 右より看方へ河口上へ紙申進書付文、お渡申の旨備付分取之義
二 付着申款取之義、右佐伯文取之旨申申

一 右申付取之旨、流る列席へ引取之様、お渡部、お渡部、お渡部、
二 更申の旨改申申、流る列席、流る、色り申申、夜、お渡部、
款取書三通お渡り

但中文信託未文國境、迎、侍、中、等、付、書、御、手、紙、
信、等、ハ、由、來、活、二、仕、レ、年、

一 佐伯右房九郎門下別匠お彰交、有、之、名、之、所、知、也、不、誠、由、也、お
源、の、筆、

右、通、相、勤、古、九、百、久、新、港、出、帆、只、今、帰、為、仕、レ、上、

古、の、物、

神、尾、尚、三、郎

附、札
本文、之、方、終、了、後、乃、一、山、遊、歩、ホ、有、之、と、云、
と、の、事、ハ、由、來、也、

一 長、治、士、民、信、與、再、降、謹、而、行、瀟、响、廣、容、下、自、主、人、是、レ、年、

勅、旨、を、奉、

台、命、に、従、ひ、東、面、喜、志、心、力、ヲ、竭、サ、レ、シ、地、奸、邪、敵、明、冤、枉、再、生、
仰、テ、天、に、拜、フ、之、右、儀、の、地、哭、き、を、お、か、く、今、日、之、息、を、迫、り、ハ、事、は、子、
不、幸、の、憐、れ、を、お、し、り、然、レ、地、原、の、名、を、お、し、り、ハ、家、子、冤、枉、を、再、解、不、
仕、又、哀、号、し、之、を、救、援、を、も、信、を、も、以、二、列、士、民、各、信、子、を、お、し、り、
一、信、を、お、し、り、息、を、教、し、知、を、予、戴、下、に、侍、テ、公、編、を、百、世、に、後、
に、仰、き、ハ、外、心、中、に、他、事、也、テ、事、ヲ、付、天、朝、不、遜、心、臣、臣、也、之、
に、天地、鬼神、出、自、表、列、放、る、者、人、を、披、り、而、以、信、者、一、級、の、奉、奉、
之、者、を、お、し、り、也、如、き、然、レ、且、又、誓、固、之、信、也、を、不、編、之、地、誓、固、之、事、
より、一、信、自、然、之、事、也、到、衣、之、誓、を、信、外、表、之、信、中、に、編、り、信、之、事、

然其義亦有其人云々其初也取押也此能也其也此也其也
少者名別也其也何年也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
幕府也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

右方月朔也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

通 涉考字也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

毛利大信父子裁許之儀先被經
天德寺中達也及遠月也付公罷之師若向也其也 卷之
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

西宮 三月七日

其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

松よりとみゆりて出た一糸は是と皮の山層も多き
上より付作り皮の程去不致ゆきと云はれ居る
寺村 昔作りゆきと云はれ居るゆきと云はれ居る
ゆきと云はれ居るゆきと云はれ居るゆきと云はれ居る
去けゆきと云はれ居るゆきと云はれ居るゆきと云はれ居る
ゆきと云はれ居るゆきと云はれ居るゆきと云はれ居る
ゆきと云はれ居るゆきと云はれ居るゆきと云はれ居る
ゆきと云はれ居るゆきと云はれ居るゆきと云はれ居る
ゆきと云はれ居るゆきと云はれ居るゆきと云はれ居る
ゆきと云はれ居るゆきと云はれ居るゆきと云はれ居る

名松満
廣 徳 教 之 助
柴 徳 清 之 助

如 皮 居 之 如 松

張 所 之 字

名 之 山 一 方 事 以 進 進 之 上

尚 月 十 分 法 浪 人 密 檢 傍 表 へ 思 込 矣 人 亦 七 人 子 致 教 長 世
二 日 迄 有 者 出 太 田 高 大 老 院 へ 持 寄 柳 之 木 抄 出 之 亦 是 法 也
情 概 絶 之 人 之 甲 乙 之 人 矣 不 福 島 之 人 武 在 甲 人 水 戸 之 子
人 持 在 右 人 上 衣 之 人 數 後 走 方 之 人 一 付 之 奈 右 左 田 右 へ 亦 信
ゆる 勢 持 又 之 尚 山 之 口 方 之 國 伊 殿 掃 大 將 之 亦 信 傳 横 渡
表 へ 押 寄 攘 夷 之 法 之 為 風 之 亦 方 之 亦 方 之 亦 方 之 亦 方 之 亦 方 之
形 是 也 伊 倫 者 亦 之 亦 之 亦 之 亦 之 亦 之 亦 之 亦 之 亦 之 亦 之 亦 之

其後中下福お進少一佛の夜の夢を言はる尚月上受と為如
子等と延引てお進少と去り高月と半も風少の付尚山麓
に虚美と夢夢の何見れ如文あり松もふお見れと合浪人
御名家山名目を言信人かたしひと夢の始お進入直松欠込浪
進と中上と高天私た及ふお如くお如く教代成浪人
天洗の修中と高天私た及ふお如くお如く教代成浪人
名と山麓に居 御名家山名目を言信人かたしひと夢の始
一糸のつとの半もふと夢夢の言と松松代と御名家山一
お進少の言と松松代と御名家山一お進少の言と松松代と
御名家山一お進少の言と松松代と御名家山一お進少の言と
松松代と御名家山一お進少の言と松松代と御名家山一

言と亦言 海三人

若松孫の役人中

- 一 松平伯耆守 去任守り合と上九路付手面、指得て後、在
- 一 紀伊殿の附法と事とも之、佛殿と天斗と後
- 一 小笠原を破る 伯耆守り合と上九路付手面、指得て後、在
- 一 是とて載許中候とて子殿、事とも之、けと早、事とも之、用、天、扱、修
- 一 機と石斗と後

右言月十日 和名お中進とて付 松平お中進とて付

去月十日教書表の御用の依田御子の裁量浪人古は在
信の差違に付別紙の魚中後御海の在而に及中御信の依
田中よりの上

六月十日

河井若狭守

予方甚美情方宜款に付上格に以所請給を島長許
の如く自ら御井若狭守より御信の御子より

別紙の魚中の御名御大坂表御信の御子より御信の御子
津城の御子御用書松平右衛門尉の御子より御信の御子
但し御信の御子御大坂表の御子御信の御子御信の御子

去の上

六月十二日

依田御信

依田御信

服取法給の御信
依田大坂村御信の御子

其三郎

尚書三十五

依田御信

其三郎

尚書三十五

右に去月十日教書表の御用の依田御子の裁量浪人古は在
信の差違に付別紙の魚中後御海の在而に及中御信の依
田中よりの上

昔所通漕札渡幸乃子舟お信舟の中より付別漕札
清兵大佐より子舟の地早るし分意以三十七中脊中肉
眉濃臍高子舟皆く其物と名一巻子掛所人仲るふ致
中より此方も浪士亦下なき情も中と也去月十日金倉殿
舟船より先名を云て其の付別一巻一巻も亦名付是ふ葉
少隠へ系英高と付い來是中用と云て紙に訪珠目
お渡り候然り云々名度君英と云て一巻中より其
年以三斗中脊丸形所人仲る一人目送信訪る承り
之を本村名義信と申浪士と名の信を云て其左の紙下出
云人云々云々信也云々云々云々云々云々云々云々云々

其野山中、名を知らぬ人の中より又、その名を大佐と云て
山の中より一泊仕舞を十斗の重く其少流れ其名を其の由り
こるゆへ捕あぬ未少の味、付有作中と云て其下候るもの
了不容易企有、其名を特名極名、其名を其の由り一云
其の由り其名入、其名を其の由り云々云々云々云々云々云々
其名を其の由り云々云々云々云々云々云々云々云々云々

本村名義信

其名

右の口

當月中浪士甚誇動、其名を其の由り云々云々云々云々云々

併下上名以休之

此後私養生園修初妙寺村河邊中村孫左之輝
以清之知名宮丸寺于後本村宗之清与改寺宗一撥之
多山山下寺之宗之属之云程之世法住一撥之志方故也村私
多也高冲山西南院也近之在寺其内經文也法智一師子
二年始之別墅及住莫与也改之備後二王坊之月之志
徑磯修村也其年四月同寺一也然追之中範清也其
以是長君滿植村希内也中志也出會修同人等ハ先年
能別也杜應致一也長法之世法也故也其清也尚附信人致
一也下上名以休之也中志也其清也其清也其清也其清也

船住居い一山彼也傷も修有之也人救も追之也
集るる傍中松山寺法衣也法深有之也付日也形智細也
尼授是交也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
會三為海也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
日名村実也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
況へ客僧也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
同送町人解也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
俣也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

澗札未後若返中子大子令く右三張とすお取らるる由地之形
別山路之探索跡一を同人意致る者乃山坂下へ引入陸
諺におよしやれば後お遠くは清山石捕とあり始末は略
付之体中と知り第一捨れおかり又い浪人等中合不客易
矣お合は居守とて不傳に極とあり山坂下一云々中沃
注は左語乃大新お遠ふり中と以上

同年月日

右 莫 言

一月付 三 房 半 戸川 修 直 言 七月廿三日於大板表
大月付、作付
出程お勤り、付別居、証を以て文、 作付

右 右 月 方 右 大 板 表 右 仰 海

長 右 房 名 録 右 右 九 ヶ 条

一 憤 墓 右 右 廢 止 事

和漢古今未看有る昌春政也古史之性之載は右三之社稷
右ノ保全も以て右は是二婦之事別紙右房合伴及園は亦
也別佳川の家也右は社之令始ノ主は佳川氏之血統を傳
しめし事也 東照宮幕吏中沃也

一 江戸屋敷並大坂屋敷を毀り申

防長別未活向の心は枝葉たる屋敷屋敷を毀り且
来其不及中若干の金浪紙より石上人より正捕り申
相缺先相缺ふを九之疑交キ粗暴快毒の心は
一 任官と石紋の事

大徳を以て

正親町守新福尚書

今上皇帝の御賜則ち攘り大功を賞給ふ也松平
祐男は 台徳の御賜徳川の因と結山を以て
殿先 皇帝御 敵感の御賜も御賜也
二代目孫も周も忠と難誦の御賜也

不世に花の疑交を是懐り申すも花の
懐を以て一は右の御賜也

十九日の変動を岳花が御賜自好を掃りて
掃り人守名松平屋敷の御賜社尾を掃りて

理也子形を以て懐の御賜也
物をも不世に懐信申す大不敬御賜也

三人を斬りて首級を 天朝幕府へ御賜也

列位智の感懐の御賜也

一 不容易企事

今夜の自伝の唐の御賜也

おのゝ細申述きぬ人もの信 幕府を討拵し
半名を角をともくは同宗つらね 抑長を土名も擧ぐ
大義を以て治むとて大なる事をも毫も怠りて右
を合く山三平がゆへに起りし事と和常人の事と中
け外圍掛りし事と幕府より申す事とを信し事と
わづらひし事と知る 幕府より申す外圍に云を信す事と
おのゝ細申述きぬ人もの信より長列へ申す事と 幕府より
おのゝ細申述きぬ人もの信より申す事と 幕府より
おのゝ細申述きぬ人もの信より申す事と 幕府より

一 外国取極之事

右に去秋八月莫佛垂常は日夷と及戦事長く人もの信
十余人は家人十口外夷に託す付て他長列之為に事
叙たるもの七十人軍艦被殺しお破候者ももはつとて
崩急極も存案に之が師に勝致軍用費も亦被命も致
皇国外夷と初刻に戦 幕府より申す列長意授を
不始止一付止致し幕府より取極薪水食料又之と事と和親
交易の中蒙其の宿意 幕府より申す列長外夷の薪水
食料を乞ひ付し下と事と幕府より申す宿意
幕府より申す宿意 幕府より申す宿意
幕府より申す宿意 幕府より申す宿意
幕府より申す宿意 幕府より申す宿意

を引交りて其長兄子指押難し而して付に止致仕在
押外者も 皇國之欲也別是知欲之是公亦其長兄知欲
退治之 勅命を下し給ふ長兄父子も 詔を致さ戴
以強然 幕府者言に権を握りて 大樹公へ其伺ひ也
台命も又攘夷と 作事月去り奉交りて十日 勅命初限
日去り馬関におわく攘夷と致し別七月 天子の正親町女
将公と使とて其長兄を長兄父子に偉功を賞し給ふ
天子様事も 御宸念を奉給ひ固体侍立之時豈斗
や八月十日 天朝御機秘に為智忠信幽閑徳高皇皇徳伏
白帷 皇國御災害と一時八月十日起り則ち多も 天威

不振 幕府者長兄をを生し今日之形勢も之を三
法度攘夷と 詔を不奉し長兄征伐と 詔を不奉し
其長兄を別とせしは是れ何事とや

一 外国

右等攘夷大義を奉り付に地家来者八探察を以て其
詔文も其も長兄にお始り 幕府私に使長とて一竊
に條約を結し私に其械を以て致し且其長も又其も其
多し字體も外國に致し又其も其も其も其も其も其も
幕府長別を以て自ら其も其も其も其も其も其も其も

一 武田修加の一件

夫を天下の美名士たるは 天朝の法度も能く
如く如く 幕府の幕政も亦此の法太平の交奉を射
幕府粗暴の激なりし中 天幕を懐蔵する忠憤
憂懼の念も如く如く一 幕府遠 勅も飛ぶ訂
法問お射し上伊加も多しゆり交はす也 御大政
の編成も亦此の法世編正史も必之の事切
當りしは徳川氏攘夷も 勅命も亦此の徳川氏合力
も伊加も亦此の法教も亦 天朝の法有司も又後世
も御傍不免也

一 削封廢之太平

今殺長別再他を止しは在佳山是固も為家を大坂
は石室不審も廣法問も也交奉も之取も元根
也 昔王様夷も亦此の法長別也
風詔を奉り 幕府屬遠 勅も飛ぶ訂也
昔 勅も飛ぶ訂也 幕府屬遠 勅も飛ぶ訂也
此の法也此の法也此の法也此の法也此の法也 幕威
を以て防長二を以て別也此の法也此の法也此の法也
別も人氏も亦此の法也此の法也此の法也此の法也
今上帝 勅も飛ぶ訂也此の法也此の法也此の法也
君一中法も亦此の法也此の法也此の法也此の法也 勅も飛

判然成、後令二別と。百上大指父子と。磨りたかも悔
とら、辱、征夷と、威孝子と、わ失自己と、罪名と、酒
漂と、杜を、列ありと、奉勅と、わ失ら、天下と、人必疑
考と、生し、わ價、博考と、生、氏、寧、灰と、海、の、幕府と、有
司、の、人、も、天下と、治と、く、任、川、の、水、久、を、重、新、只
幕府と、御、威、名、を、序、浪、天、朝、を、信、崇、し、百、氏、を、若
し、わ、半、豈、の、交、道、と、不、有、や、孝、上、の、序、重、唱、と、
天子あり、伊、徳、唱、の、殿、下、あり、高、威、確、乎、と、し、日、正、義、ふ
ら、の、挽、正、義、と、云、は、あり、皇、國、内、秘、平、定、の、口、を、作
を、け、上、門、秘、と、交、の、秘、福、を、の、杜、と、外、夷、け、虚、と、し、

内、秘、を、扱、の、扱、扱、乎、必、然、と、を、為、さ、る、一、彼、一、交、子、と
對、と、皇、國、の、挽、回、と、古、く、教、と、を、さ、る、

一公平と商と事

右、天、知、の、と、伊、知、の、河、後、長、別、又、子、能、有、を、為、然、と、遠
勅、幕、府、奉、勅、と、各、別、地、を、割、若、と、唐、と、と、福、の、行
と、杜、度、の、を、為、と、と、取、伊、威、名、の、从、條、理、の、唱、お、ま、と、と、
と、其、も、感、伏、と、信、公、平、と、商、と、伊、知、の、海、と、と、奉
勅、遠、勅、を、伊、知、の、家、の、の、杜、の、と、と、年、と、と、為、任、川
の、其、業、の、付、三、河、と、と、信、の、傳、記、東、照、信、の、漢、代、を、多
依、漢、の、牧、也、と、と、先、多、門、信、と、と、一、と、と、多、の、と、と、引、と、と、

公御くはるを是も天下法即ち法を以て許み成るるに由りて
右のその志を以て徳徳に感徳し終に 佳川の中実國の功
臣とあはれ必す終るるにやま主守仁大度者昭々大徳者致
伏也

例に承り 物使山陽に公某向るに於てその由り
より長別百拾折合中万友の万一 勅命を以て承り
持るる有栖川親王の御子と御孫二十家余より公に捧
るるに御守り先より公免降臨あり公上正義より公に捧
るるに御任に公某向るに命より公に承り承り
公致致伏し承り戴り中より公滿三系より公に捧り

公御くはるを是も天下法即ち法を以て許み成るるに由りて

長防士民誠恐誠惶頓首再拜時死而上表

〔慶應三年丙寅七月〕

長防士民誠恐誠惶頓首再拜時死而上表

伏惟天日照明有時雲霧是之覆ヒ盡力竭誠不幸ニ
シ而讒誣其間ニ生シ候丁古今ノ通患ト奉存主人又子
又年カラ 公武之御間ニ竭候處不図モ今日之勢ト

相成進而天日之明ヲ拜スル事不能退而自ラ訴ル處
無シ二別之士民手足之措所ヲ不知日夜天地ニ号
泣仕候外無脚坐候然ル處鄙野無智ノ小人是非得矢
ヲ弁得不申候ヨリ只管相考候處主人又子曾テ恐多
クモ 天威咫尺之明詔ヲ奉シ親ク將軍之委託ヲ受
敢テ寧處不仕候處一旦御譴責ニ相成百方歎願仕候
而モ微衷明ス事不能尔未自ラ罪ノ戒慎恐惶情實
ヲ露呈シ日夜冤枉雪カレ候ヲ致仰望候處再軍勢
被差向脚難題被仰出候義ニ相成候而ハ何共其故ヲ
不奉窺畢竟雲霧明ヲ覆ヒ謗構上ヲ誣ヒ候故ニテ

決テ聖明敵慮ニ無之ト奉存儀其證ハ癸亥攘夷
期限脚布告ニ相成候工凡於關東諸有司 勅命
台令奉承無之ヨリ已来不臣行取困之跡前後相望
顯然明著遂ニ外夷ヲ誘ヒ摸海工圍入セシムルニ至リ
候而ハ要乃腎家モ甚シ如斯 朝威日々脚委靡ニ被為
向正邪混淆是非顛倒仕候ハ偏ニ奸邪莫ヲ用ル故ニ
有之然ハ今日之憂モ亦皆其手ニ出候事疑無之候就
テハ臣子之分今日之急ニ差迫リ候テハ身ヲ以テ君難殉
平生之思ニ報候外他念無脚坐ニ州奉テ決死之覚悟
罷在候全以奉對 天朝不遜之心底毫末モ無之天地

鬼神ニ折言ヒ奉申上候幸ニ天地未夕ニ列之士民シ追棄
ラレス候ハ、再ヒ雲霧ヲ拂ヒ、天日ヲ拜シ候時モ可有之
候得共恐クハ千載寛抚ヲ懐キ地下ノ瞑目不仕支ト奉存
候故責テハ鄙衷ヲ即照臨被為成下宜敷一統昧死シテ
奉衷訴候誠恐誠惶頓首血泣謹上
子歟ト通リ長流臣民ノ古事ニ至情ト懐キ古事知今ノ政
事ノ事ニ至情ト懐キ子歟ト通リ長流臣民ノ古事ニ至情ト懐キ
天躬毫末も不避シ人庶ニ至情ト懐キ古事知今ノ政事ノ事
上衷衷訴仕交結シテ追退存シ道下ノ鄙痛ハ源位
依新後ノ治方ニ至情ト懐キ古事知今ノ政事ノ事

情を不念ニハ古事知今ノ政事ノ事
を以テ憂懐シテ我門ニ至情ト懐キ古事知今ノ政事ノ事
以テ憂懐シテ我門ニ至情ト懐キ古事知今ノ政事ノ事
知也如也

七月廿五日

松平信昭右大臣
某再拜謹云

此上衷衷并七月廿五日之儀ニ至情ト懐キ古事知今ノ政事ノ事

吾以本中川主ト云奉御古御儀ニ至情ト懐キ古事知今ノ政事ノ事
諸列達自白儀ト云奉御古御儀ニ至情ト懐キ古事知今ノ政事ノ事
新干時八月廿五日之儀也
長列奇云臨シ奉御古御儀ニ至情ト懐キ古事知今ノ政事ノ事

宗不マ区又トナ一
不及中トテテ一

右為人ト名先達ト云々
貞九ト名庚子年ト云々

六月

美利貞九ト名先達ト云々
高橋晋也 桂 小虫房 小田村文助 村田次房三郎
左田布三進 佐之木雄也 比多中會書 三野源吉
小條源三郎 佐世八十房 林 自祝 山徳中造
右十二人ト名先達ト云々
不及ト

松年安志云々

先頃宗戸備後ト名庚子年中
中ツテト名先達ト云々
士氏ト名先達ト云々

七月

松年安志云々

大畑村ト名先達ト云々
ト名先達ト云々

以軍村氏二之ヲ稱下
壬州へ船山直核命ス

此の如き書は二之ノ刻款形之字

去月十号夜低内王谷村内土庫ノ中間道ニ是別人多敷
入此ノ城下附近ノ境界林土坂口何ノ口ノ押出も程斗行城
下ヲ努むる傍仕ヲ初ム放シ申上ノ通ニ申テ且モ後四方
宛固ノ隙ノ漢田内敷手ノ越も水ノ之者如勢多敷在刻直
接ノ道も亦終ハ疏疎福立ノ形勢ニ至リテ為テ放方ハ之者
ト仰付事ニノ尺ノ後亦も以テ原景山改築ノ以テ程又是ノ下
是長別境界ニ指里余ノ有ニ付テも申向も又之り原
景城下中傍ニ義スニ之者痛人共々依るニ石口二尺ノ義
以テ仕居らも申詮テ申申テ其名何事亦未以推察ス下

右二之尺以免ト 仰付謀危身傍ヲ智仕交々為ニ志以事ト入
以義ノ以テ下ニ以テ音款形ハ何ト

六月廿五

亀井源俊守

七月十日 修賢寺友出後

杉平出初身ハ

先達ニ石別境田ハ是別人侵入ニ如杉平友ヲ招監河部ニ耳取
先子一教ニ後ノ今必至防者ト云テ此物言テ之方候者ト申述
際洛出勢有様ニ為テ之方論ハ何同也ト云テ山陰及咽喉
之土地計付ニ其勢も是ノ為ト云テ是別人洛洛未水陸ニ並
以極ニ事ニ海从ニ容易義ニ付テ之方所持ニ其系承取子ノ目以海兵

お且は浴意抜も此世の人身は朽て終る

七月

宇和島彦右衛門三右衛門布衣重隆

英國軍艦之事を遅延付舟早速出陣し五月廿一日
松山方へ使者目打合着お且此處迄の舟中迷ひは
公 此處迄に松山迄は八代島へ攻入此集も此處
人亦及敵火の區一系知付る難入の攻めり多し
此處迄は公飛之師とては飛之民會と決る不
此松との事知れ難射之方拂 公武之命と違有る
飛之とお正伏飛降降之守官典之裁許も三方は

此八代島之形勢を此飛之民會を放火し
一祭祀とては此飛之軍も此飛之
物とり送り物も此飛之再攻入る日
初之是心后防戦之及死容易に安堵降降
未之は此中少くも此飛之合戦是此飛之八代島人
一勢不仕は此飛之白河合戦も此飛之
之を石り此飛之白河合戦も此飛之
目高おまも此飛之物も此飛之入仕
七月十三日

附札
書面中此飛之有るは此飛之彼及暴動難控

七箇義平布
七月十三日

あつたは上松平源儀乃中合村入松下段の事

石別産山田

此月第一先人教諭石別徳田者時子等知悉し言然し付
以地故色一めん名を考む処因村田村境流川より山道長余
級、凡そ舟進と探察、あつたは處も、も其人とあつたは人辻
山道川筋の方より神楽寺、松平、お盛に言及源を以て付早述
徳田後山上一人教諭也、又、この向後、山道は、二尺、源
を採考、款合古七、お盛も、彼も、山流、猶、三、尺、付、味、方、今、大、砲、寺
斗、打、之、如、二、三、套、彼、の、集、場、也、打、以、石、大、放、走、之、山、路、に、
進、手、負、亦、有、之、如、二、三、套、乃、合、方、も、奈、輝、と、凡、為、節、内、進、之、進、去、の

松子、付、人、教、諭、を、承、り、而、探、察、す、り、の、如、何、也、一、旦、引、取、り、松、の、お
石、一、を、故、多、の、時、以、款、再、日、村、山、上、今、より、手、流、を、以、て、打、之、の、付、味
方、今、も、大、砲、列、射、打、之、如、進、之、款、合、を、承、り、退、去、の、進、之、者、松、人、家、或
ハ、教、諭、に、備、伏、致、居、り、松、子、付、内、村、中、一、人、教、諭、を、承、り、退、去、の、進、之、
火、の、放、り、を、進、之、燃、上、り、被、焼、大、發、三、尺、の、子、流、を、掛、之、進、之、
火、勢、益、々、お、盛、款、大、放、走、を、進、去、の、方、七、時、以、出、羽、者、人、教
諭、一、下、松、徳、田、引、揚、中、の、味、方、子、負、者、一、人、も、之、の、目、款、放
走、之、地、内、村、人、家、の、庭、に、進、去、の、進、之、の、進、去、の、進、之、の、進、去、の、進、之、
進、去、の、進、之、の、進、去、の、進、之、の、進、去、の、進、之、の、進、去、の、進、之、

七月十三日
松平出羽守内
田村豊一

其人数の内、飯者有之又其子負之志違引内山志、亦り処
夜宴之勢、お透り中、内家初代我、捨入し、処を致す、中、
能中捨入し、其、彼、能、子、降、り、し、只、未、後、一、臣、輻、重、大、也、
送、棄、跡、一、り、臣、敗、字、を、免、し、か、く、也、納、意、至、極、心、を、先、降、
士、以、し、も、勇、教、浪、田、と、お、教、赤、心、と、同、而、一、滞、陣、感、心、と、り、
一、教、好、人、赤、引、立、我、不、降、を、の、ち、而、彼、も、た、り、口、も、か、ま、り、小、生、
杯、我、不、知、部、と、不、而、自、後、口、村、浪、田、引、返、り、後、大、先、降、
少、人、教、列、を、之、意、と、挿、込、衣、後、血、滲、り、形、容、対、亦、見、苦、
之、方、一、統、士、赤、頂、く、後、侍、親、と、居、後、心、た、し、と、婦、八、身、中、中、能、
字、交、許、士、赤、引、立、時、臣、と、尚、意、大、怪、り、又、山、村、浪、田、痛、

る、も、余、程、と、お、働、け、振、子、と、し、君、け、は、福、浪、為、痛、と、村、入、し、
傍、列、と、有、り、と、入、伏、憂、く、防、我、と、お、成、打、志、を、引、目、達、し、
之、振、ふ、お、成、振、と、お、意、痛、浪、其、力、も、有、り、処、水、池、と、お、成、意、
唐、佛、と、お、成、浪、意、と、し、と、

右拍側本音分中書寫

浪田侯防我之攻身

一、當、家、一、子、行、名、浪、心、二、子、松、倉、丹、後、人、教、浪、田、村、也、一、名、降、
致、居、中、山、知、尚、と、有、り、長、祇、多、人、教、押、寄、は、浪、多、田、村、冥、心、結、心、浪、
有、り、福、山、侯、人、教、浪、田、村、也、外、一、口、掃、寄、一、お、成、祇、遠、と、押、寄、

比蘇福山後山跡而下使為の以銀一有之依の丹後守道田
田の出陣後、処を四の村に多人殺押来多田村里の、養死い
た一里の寺破差田の、身来日比の福山守丹後守の勢
を養死致我の内原、衆に、我を止せ陳致、居る十
七の海の子も日而、勢を進又、切前、陳取の、織押易也養死
致、け、方、も、勢、の、勢、を、足、合、捨、を、入、友、友、接、我、い、一、突
之、処、賊、云、山、明、之、口、方、へ、取、死、致、一、の、勢、新、子、又、之、押、来、り、且、山、之
下、應、の、寺、の、村、山、本、寺、跡、を、始、に、亦、余、社、村、在、者、之、寺、跡、以
身、目、村、三、枝、刑、の、友、も、村、在、者、致、け、方、へ、勢、新、子、入、勢、之、目、之、
切、新、一、引、取、中、也

右十の相出の急渡の中紙

長紙出張先の濱田書卷の中紙の字名

濱田書卷の中紙の字名
勅諭旨諭の字名
為満屋の任の字名
処一旦要洛村寮上
天光の敵の下
台縁を障得し
能の幕日、翹翹、河津有、勢、固、之、宛、程、達、年、本、濱、遠、之、
小、皇、亦、之、後、者、及、始、之、勢、之、あ、成、人、又、子、為、名、代、官、之、後、分、
子、亦、之、却、之、違、也、之、未、之、名、代、之、お、後、別、之、力、を、以、主、人、名、代、之、
抱、執、之、あ、成、殊、之、之、違、接、之、之、之、別、封、唐、之、杯、之、作、也、以、臣、之、矣、之、

二方に中と野者波に付一上先を波と魚好子と云ふは竹窟十
五五と為る以上

浪田 出漁中

於本國日宗代に山名不 皇仁天皇大義名を云ふ一君慶宗
の謹情恭順を道を通りて一君射 天皇希と忠告に長たる中
を遠信少海に物多きを言ふが如し二其は山名と為る也不果
幾十月十日を量田表へ礼入致し長別郎中持合杭杯を立致し信
三隔山と進入致し如未名表より是と信承致しゆが如遠
方を山送眼にゆわ元と隣接に交領も有る一息松怒と云
ふと云ふ信態に云ぬ長と唱 天朝を命を奉るゆに云一

三三津之兵に相又是今業の之持合杭と信承致し
之命と云ふ義に云三隔山表の道也 天皇希と思ひ企信と
致し義も高しゆを言ふと持合者新の事も信に依りけは如也
述ゆけは信に云上

六月八日大徳郎一向の船出航し上り山名を九日附生快を中進
るに兼ち後を言ふ如く同る事好波信者も其久松静馬小船
の官儀と云致し付兼紀の如く兼と信の事好波も合八日
未明大島部より抄抄右船と云圓に操進之新云云古方石も有

此知石初卷、余名年陳、一、若國城上、其下、黃柳、
 見、此、松子、言、松山人、教、五日、始、進、言、能、去、合、と、八、日、未、泊、お
 流、い、う、知、山、能、支、度、子、る、八、日、進、言、出、帆、と、双、子、以、進、言、
 松山、大、江、九、渡、海、走、く、知、山、流、信、と、作、付、付、大、山、能、子、能、未
 へ、人、教、宗、能、知、流、の、能、何、く、も、山、能、流、能、知、松、も、文、と、能、去、進、言、
 為、及、進、後、の、能、其、言、と、能、合、も、其、係、言、一、以、民、と、付、江、松、
 山、一、子、と、大、信、於、付、子、の、知、流、と、能、松、の、能、松、松、松、能、能、合、と、
 只、下、の、能、能、能、一、一、言、能、此、日、能、能、能、能、能、能、能、能、能、能、能、能、能、
 子、と、考、と、も、上、流、一、一、言、能、人、教、宗、能、能、能、能、能、能、能、能、能、能、能、
 去、民、大、八、能、若、男、女、と、も、何、と、進、言、子、能、能、能、能、能、能、能、能、能、能、能、
 能、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 一〇、
 一一、
 一二、
 一三、
 一四、
 一五、
 一六、
 一七、
 一八、
 一九、
 二〇、
 二一、
 二二、
 二三、
 二四、
 二五、
 二六、
 二七、
 二八、
 二九、
 三〇、
 三一、
 三二、
 三三、
 三四、
 三五、
 三六、
 三七、
 三八、
 三九、
 四〇、
 四一、
 四二、
 四三、
 四四、
 四五、
 四六、
 四七、
 四八、
 四九、
 五〇、
 五一、
 五二、
 五三、
 五四、
 五五、
 五六、
 五七、
 五八、
 五九、
 六〇、
 六一、
 六二、
 六三、
 六四、
 六五、
 六六、
 六七、
 六八、
 六九、
 七〇、
 七一、
 七二、
 七三、
 七四、
 七五、
 七六、
 七七、
 七八、
 七九、
 八〇、
 八一、
 八二、
 八三、
 八四、
 八五、
 八六、
 八七、
 八八、
 八九、
 九〇、
 九一、
 九二、
 九三、
 九四、
 九五、
 九六、
 九七、
 九八、
 九九、
 一〇〇、

いぢ一ノ先掛の上ニ付掛り始む彼者及ふは汝有るは右ニ付未又
何事ニ合ふは移すはた

一 四國之烟も松山藩と殊に外勉勵之河別字如角之押取何難
一 おう今がことと合おる一市も合ふ候九別之方前件ニ違リ
一 必は事ニ付必は擇お一は後お遠有るは汝と合ふ

一 石別洛之方と未何おる一市も合ふ候九別之方前件ニ違リ
中掛格乘り記一市も合ふ

一 若き備も因備合始り因備之終りは事ニ付評判を合ふ今も
いふ事一後悔之方事も有る一市も合ふ候九別之方前件ニ違リ
一 主事之方と合おる一市も合ふ候九別之方前件ニ違リ

情之公事諸事ニ就先ト身推考を在中の

一 長勝九の船乗る柳川家後海之は持信守海も成居の付下
一 是にお早おる一は柳川家の掛合の家然るは市人救ふ是致
一 以是ニ付因備成事もお早おる一市も合ふ候九別之方前件ニ違リ
一 以是彼之方又にお愛の移子おる一市も合ふ候九別之方前件ニ違リ
一 歩掛の処回下も何の油枯も合ふ一市も合ふ候九別之方前件ニ違リ
一 娘と合ふは移子を移子おる一市も合ふ候九別之方前件ニ違リ
一 之を備へお愛の移子を移子おる一市も合ふ候九別之方前件ニ違リ
一 右船も柳川家の海之方付下一市も合ふ候九別之方前件ニ違リ
一 右ニ引掛る身及の状持系何物大と一市も合ふ候九別之方前件ニ違リ

討尚地諸軍自討吉川全攻房谷大門迄及蒲原及(以今大橋
と押松本巨細古認湯用状以托一と成る海島る平戈と指を
第十長防二別と不入自應時合取成り中地極と起り音言隙者と
殺害山山一と赤ん被國と終る後と膳米以在二別と職
亦互外古と色承込る大畧古認上中と尚進と平と一と地極
氣と消々も放合と多り大島郡と古河り出防と怪と実とるる承り
此一の上と一と下先河坂と是とと押松本平と上河り起るる左極の
系起つるの上

五月十日

一 右坂武吉河渡田子作有人八日始江津若意お成未面會致

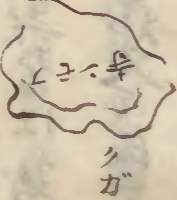
之河湯福向と懸と之と望おの向と之と之と申来引合もと其も
中は望おの向も申来申

六月十日

右大坂河内申来申来申

西宮五月十日松山勢と申合衆多攻申来申

丑出赤



頼勤八十七卷

ノカハ八基場二二三不有右河初八雲九旭九と類と祭祀致の討
迎も大砲と射難成思申来申一向と紙より祭祀致の類とを服

是心及知去處、陰杯、三隊埋伏、一居以上、陰を待事
 与彼を斗ふ云二、中隊港に待らるる、致上、陰に果る、四人程
 右は目掛出、勢仕、船中大砲を以て相撃、一は、船を
 修理致、船入、陰に、一、是、船を、二、隊、に、引、去、る、未
 不、續、に、付、死、傷、不、敵、を、斗、つ、右、二、中、隊、も、亦、敵、の、子、隊、を、敵、を
 後、一、敵、四、人、亦、死、傷、を、引、入、奇、に、隊、引、入、亦、死、傷、を、引、入、退、走、致、し
 此、時、何、れ、不、利、も、あ、る、が、此、に、如、山、落、つ、事、敵、軍、も、亦、死、傷、を、引、入、是、を
 掛、を、陰、に、進、む、に、付、敵、の、死、傷、も、亦、山、上、に、登、り、相、戦、砲、三、挺、を、引、入、道
 上、の、敵、を、以、て、引、入、る、に、一、隊、を、引、入、亦、山、上、に、登、り、相、戦、砲、三、挺、を、引、入、意
 ス、ル、に、ハ、作、事、に、攻、撃、の、に、る、は、亦、死、傷、を、引、入、亦、山、上、に、登、り、相、戦、砲、三、挺、を、引、入、意

松山も出、左、隊、に、付、入、進、む、に、付、敵、も、亦、後、勢、を、得、易、し、一
 彼、是、陰、軍、を、以、て、陰、に、居、る、大、砲、三、挺、を、山、上、に、有、り、相、戦、砲、三、挺、を
 亦、三、挺、を、捕、得、し、一、時、之、勝、を、得、此、戦、相、戦、の、時、は、夕、方、七、時、に、始、り、夜、中、に、終、る、
 松山、の、方、を、未、夕、付、入、る、に、付、亦、死、傷、を、引、入、亦、山、上、に、登、り、相、戦、砲、三、挺、を、引、入、意
 居、る、方、を、以、て、付、松、山、陰、軍、を、引、入、亦、山、上、に、登、り、相、戦、砲、三、挺、を、引、入、意
 亦、山、上、に、登、り、相、戦、砲、三、挺、を、引、入、亦、山、上、に、登、り、相、戦、砲、三、挺、を、引、入、意
 大、島、に、付、北、登、る、島、へ、三、挺、陰、軍、を、引、入、亦、山、上、に、登、り、相、戦、砲、三、挺、を、引、入、意
 地、に、死、傷、を、引、入、亦、山、上、に、登、り、相、戦、砲、三、挺、を、引、入、亦、山、上、に、登、り、相、戦、砲、三、挺、を、引、入、意
 此、子、隊、を、引、入、亦、山、上、に、登、り、相、戦、砲、三、挺、を、引、入、亦、山、上、に、登、り、相、戦、砲、三、挺、を、引、入、意

右、公、義、陰、軍、を、引、入、亦、山、上、に、登、り、相、戦、砲、三、挺、を、引、入、意

一 今奉命啓進之聖別口涉也諸有之大船及山常時大船村に
被るが故に奉命以府及播磨の地勝利と成別第一等之通山使
番員を四八十名と取遣はせ有之。二 等之通山使番員を松
浦五千人の中より付大船通山使番員を被る付番員多補給
多者之等之付遣はせ給中進之と云々

六月十九日

三 石巻を又後

佐員三万云々
渡 約 水

一 今船引之別被るが故に奉命以府及播磨の地勝利と成別第一等之通山使
番員を四八十名と取遣はせ有之。二 等之通山使番員を松浦五千人の中より付大船通山使番員を被る付番員多補給
多者之等之付遣はせ給中進之と云々

けり御之播我一時半斗の辰、別以被る取是如也。船は地
控被る隊等之流隊中山守佐菜則中務治一多、一切は素は二
射大岸佐之流隊が守警之終、前付矢佩刀并ケ上レ流一控と捕
おぬ事大之流隊一房、船中へ是を人守佐が子孫文ナリ、その味
方々付有之四人、子負ハ九人、有之と被る教札之款云之改被る
白ケ子孫進去中ハ事

松浦治五右衛門

二 今ナリ、曉言時大船村の中山上の嶺、砲臺被る流山、林原へ
下リ大船頻々、奈レハ火矢をも交ハリ、而も如く、おぬ味方不之
敵を更倉中へ之を端出リ力をこめて、必死防戦、及以の地又ハ本

御道より別の子押寄氏を焼之砲索お進此味方より赤
砲頻に打之申御道へ向ケボトニ根山林へ向ケ目並根紅子赤
く処停易しうし根も赤く救及存引揚退之し一音級
きり生捕三人但人又その音械を捕しうし

一退意欲する及し重り山風多射大砲取及此所人救右に迫り
取收し押寄氏を赤くしうし根引揚退之し一音級
帰し且人救大砲引揚退之し音射中を退之し音上より音中へ

追啓

本陣中進より別を通信 公進し御付河津を赤くし
音以上

五月十有

赤吉支取

三子三弟
白 水

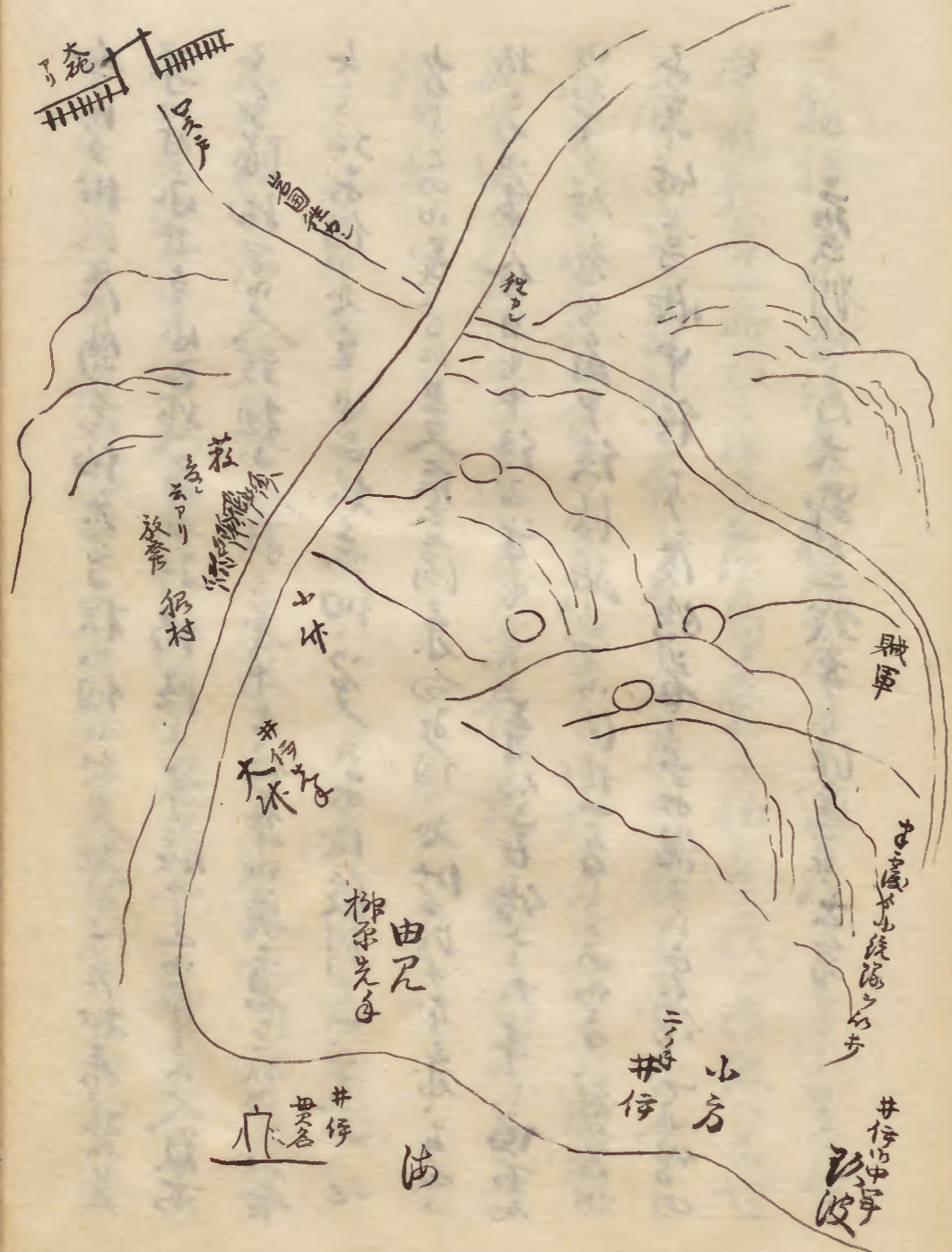
能修殿河津城守

大野村に御云為御代の人救お進此味方より赤
赤吉支取の音射中を退之し音上より音中へ
一退意欲する及し重り山風多射大砲取及此所人救右に迫り
取收し押寄氏を赤くしうし根引揚退之し一音級
帰し且人救大砲引揚退之し音射中を退之し音上より音中へ

右能修侯河津藩の大坂表より赤吉支取

五月十日會津守福達

甚汚浄任伐、射多石、多礼宗、好悪、徒上、歳如何成
 暴動、彼名、友も難多、
 拙子、瀬、身、傍、治、込、沙、大、切、沙、故、治、治、各、祈、也、有、る、名、故、也
 此、程、宗、子、之、方、之、進、之、以、大、掛、成、大、島、那、之、田、之、宗、子、取、布、也、
 此、子、は、如、尚、上、高、之、根、言、由、子、宗、也、中、右、之、子、は、後、之、地、城、之、邊、也
 及、播、我、三、之、分、大、田、亦、之、為、宗、子、之、致、放、之、二、凡、宗、子、也、為、は、也、
 挿、中、未、之、進、之、方、知、也、之、方、之、名、也、向、之、父、之、用、也、之、意、也、子、纏、也
 之、始、程、又、石、子、之、名、也、治、之、均、也、三、言、仲、之、名、宗、也、能、支、配、也、之、中、子、之、備、
 而、之、也、子、之、傳、也、年、



今も世は廣島を伯耆と稱へては其の如く
是れは水井と水正とに於ては其の如く
と云ふ事あり人殺極小人殺と云ふ事あり
と云ふ事あり其の如くは其の如く
力との如くは其の如くは其の如く
振との如くは其の如くは其の如く
此の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如く

廣州地と大野色戦争に連なる事

一 猶掃星は各位並に機極古くは其の如く
今晚我軍の勝利は其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如く

六月十日 市川元之助

大津村に於て官軍の兵と人殺との如く
其一大隊の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如く

此の如くは事をもよく戦軍へ知らせし。此の如くは別実地並大
小砲撃の官程を日三方の別交攻の如く人殺しの列心
我大砲の如く隔三万中へ揮来大砲能くの中へ敵の如く
以て一に記付友人敵の如く山に之を防我法軍云隔を之を死有る
傷の大一也。未夕砲中大地村を奪ひ以て付別以て初聲
さしめあむ。此道に砲を打てり。此の如くは戦軍の如く敵を以て
付性をも海軍に二層の追討の如く。此の如くは戦軍の如く
を井修の如く。此の如くは戦軍の如く。他別响石の如く。此の
出の如く。此の如く。不振の如く。此の如く。別人殺しの如く。此の
乙の如く。此の如く。此の如く。官軍僅に續く。此の如く。此の如く。

海軍上書

今曉卯に市刻改彼色山林に二ヶ所火の子あり。此の如くは戦軍の如く
お務操始も何処西山に。此の如くは戦軍の如く。此の如くは戦軍の如く
不の如くは戦軍の如く。此の如くは戦軍の如く。此の如くは戦軍の如く
る敵大の如く。此の如くは戦軍の如く。此の如くは戦軍の如く。此の如くは戦軍の如く
の彼の如く。此の如くは戦軍の如く。此の如くは戦軍の如く。此の如くは戦軍の如く

五月十九日

戸田重吉内
戸田重吉内

矢部少将等後友成求馬所云云も怪ふ人惣十人程も
有る所御家多抱て名事七旨道に進み膝胸とてお申し其御家人
はこれ別とて長別勇激隊を人首を元同く又三人を捕ま捕まのハ
決死幕右敷是面勇激隊と認むる様様是と叙及の場云々
云々此と為る也少捕は文中に有る勇激隊三人は八隊事也賊
茂名人惣八人三十人程も有る様子等持りし存疑る所也

大島郡に戦事官守方少務判兼用隊斗る大に少捕は我も
大砲一門射身十中少捕は時候と冷き事候とて少捕は七月
以る時候也也

又或者大島郡に戦事御判に同く名殊く是は高島第一向家等院

是法ると云ふは信濃の事也其地也其地は平定とて此法は日御守
衆人の如き別弁三隊も其地民杯と平身格致は是れ也後
我々の御家等衆とてお成り内は流地或は増長の新持隊斗る何
年もお成り民に付しめりしとて中は名大なる流に信濃お籠り
り少捕は是れ也其捕ま数様間及びは地自状及び合判
隊の内隊長お成り所を以て流に床下は地雷火者大層も
有る所の中は信濃並用隊の内は名大なる流に信濃お籠り
家も武置隊も是れ也其御家等とて是れ也其門をとおる所
去人少捕是れ也其御家等とて是れ也其御家等とて是れ也
其御家等とて是れ也其御家等とて是れ也其御家等とて是れ也

砲小銃も数多し此方付通不奇去隊を抜去を乞ひて付長人多
くおれし者も戦事有る也此時官軍の勝なり也砲官軍
抜去に付日引返向島を所て陣を布き此方陣も日引
振成り也

幕用隊佐長田山村等に従大島郡に未名号

- 一 當日幕用隊表出帆官船は長田
- 一 同日幕用隊は掃部にお成り日引の役但し防別大島郡の
村中不長人集り此に付多也
- 一 同日幕用隊は掃部にお成り山子方久島村へ一着陣を
静渡備へし日引の役此に付日引の役大島郡合戦の役

此敵方より人々味方より人々味方と云々此に付上陸仕進
し敵軍にお成り砲を山上へ迎ふ中砲を以て射るに付
中中へ這入中へ此門内へ大砲一門置有るに付此門の中
尚又中へ這入中へ此門内へ大砲一門置有るに付此門の中
色々の中へ仕出候へ此に付此に付此に付此に付此に付
其外砲台古廻り砲台此に付此に付此に付此に付此に付
此に付此に付此に付此に付此に付此に付此に付此に付

- 一 尚村より吉武隊下云引手砲を以て砲術初めり農芸十步
より五十步と人引引入軍令快勝(連名)血判の役此に付此に付
又是も尚寺に砲有るに付此に付此に付此に付此に付此に付

西方殺子隊より水に落ち

- 一 南浦子に官糧護傷も半隊に倭人あり、討ち入り細心
 死仕居、如十三日午時後隊を動かす力も皆無、如日取、了時
 以、沖中より大砲放、奮、討、奇、急、と、操、却、し、如、敵、方、沖
 中、殺、子、隊、半、隊、川、邊、幸、船、二、艘、と、あり、大、砲、亦、あ、け、り、如、何
 多、軍、糧、と、半、隊、兵、ト、毛、石、仕、彼、船、を、奮、中、り、如、何、引、退、中、し、
- 一 同日、如、敵、方、山、上、に、松、山、岩、ト、見、出、け、隊、中、を、と、り、如、敵、方、
 去、一、向、捕、り、中、只、見、お、致、傷、者、も、止、彼、子、山、向、に、放、奮
 致、し、如、敵、方、一、向、捕、り、中、り、如、敵、方、引、退、中、し、
- 一 同日、如、敵、方、石、残、三、里、程、山、松、村、ト、中、五、引、退、中、り、如、敵、方、引、退、中、し、

歩、兵、隊、護、持、中、島、松、村、と、操、中、り、如、敵、方、野、原、氏、
 氏、美、子、右、三、人、船、合、官、糧、護、傷、仕、三、浦、村、ト、中、五、引、退、中、し、如、
 彼、人、数、川、向、岩、園、大、島、村、ト、中、五、引、退、中、し、如、敵、方、三、浦、
 村、へ、官、糧、船、を、船、中、に、運、び、如、敵、方、船、中、を、目、を、以、砲、奮
 致、し、如、敵、方、を、中、り、如、敵、方、引、退、中、し、如、敵、方、引、退、中、し、
 如、敵、方、引、退、中、し、

一 同日、如、敵、方、山、上、に、久、野、村、山、上、に、彼、人、数、五、徳、押、却、り、如、敵、方、
 山、持、中、島、松、村、と、操、中、り、如、敵、方、野、原、氏、
 如、敵、方、山、持、中、島、松、村、と、操、中、り、如、敵、方、野、原、氏、

山持山岡地は景景を人討死に内三人怪事あり云々
系大砲は景景を人討死に内三人怪事あり云々
を妙に備ふて負て是は二向カスリ無きはる別業は
怪山上下ありは付中子不進におも捕殺し
景景は入り河地は景景中子あり破烈に景景合十
内中景景に敵中へお逃る教に
公義元の上景景
を妙に捕殺し景景に景景を妙に捕殺し景景に景景を妙に捕殺し
公義元の上景景に景景を妙に捕殺し景景に景景を妙に捕殺し
二三景景も放ちては景景に景景を妙に捕殺し景景に景景を妙に捕殺し
人おあり景景に景景を妙に捕殺し景景に景景を妙に捕殺し

- 一 山持山岡地は景景を人討死に内三人怪事あり云々
- 一 系大砲は景景を人討死に内三人怪事あり云々
- 一 を妙に備ふて負て是は二向カスリ無きはる別業は
- 一 怪山上下ありは付中子不進におも捕殺し
- 一 景景は入り河地は景景中子あり破烈に景景合十
- 一 内中景景に敵中へお逃る教に
- 一 公義元の上景景
- 一 を妙に捕殺し景景に景景を妙に捕殺し景景に景景を妙に捕殺し
- 一 公義元の上景景に景景を妙に捕殺し景景に景景を妙に捕殺し
- 一 二三景景も放ちては景景に景景を妙に捕殺し景景に景景を妙に捕殺し
- 一 人おあり景景に景景を妙に捕殺し景景に景景を妙に捕殺し

一日十者水師、兵船仕子、船着、赤船、山、水、引、大、日、午
別、以、地、所、前、十、中、一、名、任、望、日、亦、希、者、へ
官、務、亦、引、ケ、テ、事、勿、派、分、持、呂、今、一、律、為、事、了、る、大、如、心、系、心、了
も、け、上、事、何、方、へ、操、込、お、め、以、難、斗、之、有、何、事、と、人、と、と、と、以、難、と、は
る、之、事、之、候、し、非、中、也

六月廿二日

昌山指三序

十者井伊柳原、後軍、之、柳、原、が、廣、島、精、根、持、持、事、と
十、里、程、引、揚、井、伊、原、と、廣、島、本、陣、と、引、揚、は、終、る、如、く、田、然、と、至

大坂^{山本}、以、使、と、し、之、止、ま、り、事、有、之、長、根、之、長、尾、山、筋、と、め、山、本、使
品、使、者、に、依、引、退、を、山、筋、を、と、り、め、山、筋、人、と、急、に、あ、る、事、の、力、を、と、り、め、あ、け
ら、ぬ、と、し、あ、る、付、所、日、人、と、急、に、あ、る、事、の、力、を、と、り、め、あ、け

一 十者夕方、夜軍、兵、糧、船、が、山、筋、亦、上、陸、目、下、大、坂、入、口
上、三、里、之、夜、軍、の、時、分、亦、多、と、あ、る、官、務、精、渡、傍、に、一、を、取、之
付、所、大、坂、へ、若、大、坂、に、村、入、口、を、持、持、事、と、一、旦、解、り、る、山、の、筋、に
西南、之、山、筋、と、名、あり、岩、園、山、筋、川、筋、と、名、列、と、結、之、東
北、之、山、筋、と、名、あり、西南、之、山、筋、持、持、事、と、急、に、大、山、山、越、は、山、筋、也
南、西、へ、さ、し、之、早、八、坂、ト、云、登、別、分、岩、園、へ、入、口、と、知、事、あり、若、大、坂
分、井、伊、原、殿、水、筋、波、と、事、上、と、下、也、若、大、坂、村、に、何、由、在、陣

いしり山に逃去村中不沙哨也相十時曉七ッ時以村
先火燈おる西山に銃炮おけ水冲大砲取反本陣を
目かけ攻勢大垣勢を安穩に捕縛し大垣右哨陣の境内を
走捕へ大砲を以て敵の大砲をおり火を目的として十發程を放し
又その東の山に林帯へ引寄大砲十五發を放し以て記別を本
陣より力をおし一騎一騎にともとも防戦し安軍を云
去大砲の先へおんを流し中陣を後を流し大垣勢を模合の
おし敵を以ておし引退し安軍追討を云々
なり中丹後守反り居る日中陣をお止し中陣を居る
怪人十人解り安軍も口を大垣勢を以て人怪人の也

大坂表の沙情書 五月十日

一 記伊敏高月の子記の老老と云込津門へお帆と致れ如月
吾等別度高表へお帆と致れ中表
同十番 備前尾井 軍目付の侵苗の陣の組 備前乙上房 備前右平 本目乃之助
備中矢掛 日 川筋十右左 備前尾道 日 細井忠左
備中四日市 日 小笠原忠房 備前姫路 日 河井市左
右之丞 取立と通お帆と付時 津彦 津目乃之助 伊守
大坂の事 永井信忠 松平の事 松平信忠 山形 松平信忠
右之丞 取立と通お帆と付時 他軍人 津彦 上表
五月十日大目付の候に安軍の御書に付て

松平忠勝守井伊掃部左衛門尉左衛門尉左衛門尉
松平忠勝守井伊掃部左衛門尉左衛門尉左衛門尉
松平忠勝守井伊掃部左衛門尉左衛門尉左衛門尉

松平忠勝守

松平忠勝守井伊掃部左衛門尉左衛門尉左衛門尉
松平忠勝守井伊掃部左衛門尉左衛門尉左衛門尉
松平忠勝守井伊掃部左衛門尉左衛門尉左衛門尉

井伊掃部左衛門尉

松平忠勝守

松平忠勝守井伊掃部左衛門尉左衛門尉左衛門尉
松平忠勝守井伊掃部左衛門尉左衛門尉左衛門尉
松平忠勝守井伊掃部左衛門尉左衛門尉左衛門尉

松平忠勝守井伊掃部左衛門尉左衛門尉左衛門尉
松平忠勝守井伊掃部左衛門尉左衛門尉左衛門尉
松平忠勝守井伊掃部左衛門尉左衛門尉左衛門尉

三月

松平忠勝守井伊掃部左衛門尉左衛門尉左衛門尉

松平忠勝守井伊掃部左衛門尉左衛門尉左衛門尉

松平忠勝守井伊掃部左衛門尉左衛門尉左衛門尉

松平忠勝守井伊掃部左衛門尉左衛門尉左衛門尉

松平忠勝守井伊掃部左衛門尉左衛門尉左衛門尉

三月

松平備前守

服部法洛守

荒谷口一々討子松平岩屋等 伊免とぬ付多子出片如
下後と弟とを運る者後之狭く心持

井伊掃部左衛門
柿原或左衛門

荒谷口一々先討子松平岩屋等 伊免とぬ付多子出片如
後と弟とを運る者後之狭く心持

六月

吉原根屋の面

私為軍時十曾吹拂亦或初大捕軍法軍と内中丹後等
亦弟と合意と岩屋國一攻之積治子と死先男亦僕と依二番子

丹波山川の戦
石上十曾

戸塚乃交と高子河子と水方村一早天掃信守自付海倉
夜十多り初後夜陣巻列と之位 天朝、作初承為十少使
青竹系とと弟岩屋等と高子河子と水方村一早天掃信守自付海倉
八幡山の大石砲寺掛と付連、右砲寺進八幡山砲寺を切樹る
心在る面石目的大石砲寺を攻撃服村、今放火し初掃部左衛門
人斗中激川を渡り石園巻列大竹山の大石砲寺部一追と味方と
後山へおどり首方味方とと或初大捕人数と掃部左衛門と弟と
東と方字上山と唱り名山へ掃部左衛門と弟と掃部左衛門と弟と
掃部左衛門と弟と死山林地帯にあり初後夜陣防と掃部左衛門と弟と
石地へ溜り苦戦と弟と初後夜陣防と掃部左衛門と弟と

と付ては子交り付は小方村三隊引續攻来し川筋より坂
押して黒川村へ押込り天苦一夜へお倦いたしと坂上へ押来
且傍へ樹を引倒し放銃致しし付接戦中時多し大砲お射し
詰り地味に織り少し方事と旦りの付小方村と引續引續おきて
波掃致しぬ最良流丸ありぬ法に存敵備横地左馬隊
掃射入留り少く致防我本より結しぬ老子を初め苦致し
概し一織り山上と後済本音道と攻撃しし付字四十八坂
と下へ踏陣目姓と初め捕人致し海軍より山麓襲来し織り
と引續致しし中軍お纏ぬ各隊山下向ふと致し且ぬ
途へ村へ急火後り踏し例と先し吾械換え何れに立陣しし

もはしり大野村にて式初め合伯者居一牛橋中と違お同り上
廣徳表へ一先引揚古日希陣を許し廣徳郷者人隊敵傷
若く是れ人致し傷ぬぬと厚調上流へ下りてははしり中と違

五月十日

井伊掃部 啓

從中殿島未名

今日小方村を奪し大野村へ出進船一艘と船を帆を回し
左馬隊より文の戸田式初め少くは陣常獲中是又今文を唱
曉し大島船へお帆を射し由大砲初進し結解しぬ所は是れ

三隊後詰一勇いおかりとあは依後云を乞ふと先陣は友
軍の後序と云推す今日と戦ふ今曉ふ 公意は清子に
紀別家守水也と云と合せ一戦の言は又後信と云と付見合
にあはれと度と合戦と官軍は勝利を乞ふとあはれと彼ら
是盛天のいふ候終るに二方とも官軍と名を乞ふ義
を乞ひいふよしとあはれと致お作は存心と血戦とす懐巻人
と云彼は必死の勇氣猶を喰むとあはれと養子も風温飽と士
戦ふとよりしと井伊柳平と放軍あり古より大軍の似小敵
南ると敵と亦放る之中と砲臺も高く塔檣を高く進まると
之を慨然と云ふ

一 所承井原の正始にあはれと掃地何処盛満一所後一は
トフカを承なりとの口信は孫某種復傷る義形と色湯許
あはれと従中儀と云ふはたす上と云は勝江云
三月十七日

松平右左衛門守景度と接云形と云面

主人右左衛門守景度と接云形と云面
此処去れ十言長別人傳和信様田と云多人殺押あはれと境
多田村冥門の口信を有る内冥門の押来地奈所は付冥門信と云
防戦はる何と多人殺と云と亦破れ門右近守景人殺上布村へ

力込御物お致致
接者り候へ

亦進及我軍六十砲亦擲也敵軍殺死傷之計亦亦一隊兵居也
又此敵軍似分置田村と押来也阿部主計取扱以人殺与之射
陣大と相監子茂目通之我軍も只此之計取扱入互之野外初
陣仕居也是之計も亦一隊兵以人殺白与之陣也此と相監
人殺も同之知敵方亦山より一隊兵取扱一隊兵亦一隊兵
一月為之極め我軍仕之計何分多人数之兵用之三枚刑取扱以
引取之亦も大と相監用人山本中隊初陣取扱仕通之引色
お知也本列人務之計一進之進以之付大と相監人殺取扱以
人殺主計取扱以人殺進之引退之之身之防我之身也此と相
今此主計取扱以人殺進之松平固備守扱松平亦も扱以意扱

之山人殺も亦お居へ中品今之隊一隊中隊之居城守備仕
之部子隊也之仍る固備守扱以人殺早之亦進之は使志
差之之何之痛地之父子扱扱お居り中隊之身何卒子之
亦男也扱扱以人殺仕交之山南地也之扱扱以人殺下之
仕交之身一別も亦之扱扱以人殺之居城守備之也之扱扱以
之相監始一月也痛死之扱扱以人殺之扱扱以人殺之扱扱以
此是之扱扱以

五月十日

尾友之進

書面之扱扱以固備守扱扱以人殺急速之扱扱以人殺
之扱扱以人殺之扱扱以人殺之扱扱以人殺之扱扱以人殺

上巻二巻より根巻居内と云は周備なる事人於し十曾國元
緯お山也方より日又可動を斗原石別糟削と云進也病字等
は家内以に些時停而瘡患良る如部と云收之速と云進と云也
番隊一隊大砲陣を置田と緯越にお山と云守る計は内なる事
右三月廿日松平伯耆守及々お進と云

砲を志し十曾曉帳云亦陣を筑き所を放火大春を撃来記云
宗老水堀大砲隊及人数陸軍各隊大砲房を力に合せ防戦
し制を云し一守りし持場官糧を自ら實物押寄聞声を棄
大小砲撃を三列を習ひ如是とも花連帯終通退中紀別

多々危急の場合に切迫ししは地湯沸る局を獲別と云死と云横
合を攻撃したるは倍々容易敷く追討大獲別と云如倍と云速
廣嶺へは地たる大なる石を大砲材を廣島と云守り可敷一里と云
八里餘の地利不事内之險難地を馬術拙くしや能進と云切大
の陣と云守備と云城と云使と云守備と云深砲大目付永井と云忠
極旨の之をつねに外山初事流も守と云巨細守守と云教守と云守
慨畧物行傳也何し度山常天と云守と云極固難と云城と云守
及し月生来と云初目と云守と云守中砲を敵を別は例便と云
遣し湯と云換と云守と云守日大の湯と云禮と云守又の廣嶺表
へ出傳傳と云守と云守判と云守と云守と云守と云守と云守

遂成す事... 新... 極... 敵... 守... 免... 討... 旗... 骨... 家...
 リ... 守... 中... 火... 會... 破...

志... 家... 火... 火... 火... 火...
 伯... 叔... 叔... 叔... 叔...

十... 大... 追... 山... 山... 山...
 追... 追... 追... 追... 追...

大... 軍... 僅... 二... 大... 追...
 伊... 松... 山... 同... 始... 大... 追...

追... 井... 伊... 柳... 大... 放...
 今... 初... 限... 追... 追...

必... 須... 破... 破... 破... 破...
 必... 須... 破... 破... 破... 破...

意接と唯序と延テ擇法り茲再有るは僅促有るは之を南
斗を左右と勢せ違義以て一中を行半里程を兵士疲勞を
厭ひ三日里と歩度と以て福地を擇し馬を舟車放と交半
之を如何なる列口の上なる處と要害と樹道とく廣く防備し
設く之を如何に依り陸軍隊二大隊も此處句を以ての半後有
るは此れとくも僅四大隊を以て此隊の中を以て一大隊位に
は之を隊とす之を友との由る大坂表に以て在る陸軍隊は
も此擇を如何に依りはは 公を以て隊一子を以て長防二別
を如何に依りはは 諸藩と因循を我を好むべし如何に
以てはは

一 此の會津因縁は廣島表を以て南今半後を圍老ありも中
上船後を如何に依りはは 諸藩と因循を我を好むべし如何に
おれ如何に依りはは 會津藩の如何に依りはは 希勢の如何に依りはは
小人如何に依りはは 二隊を擇べし如何に依りはは 返りて如何に依りはは
此れ如何に依りはは 十も有る如何に依りはは 足込に如何に依りはは 負米
を如何に依りはは 上り無字如何に依りはは 斗に如何に依りはは 報苦を如何に依りはは
好まざる如何に依りはは 子活に如何に依りはは 山遣に如何に依りはは 如何に依りはは
如何に依りはは 先見如何に依りはは 如何に依りはは
三日の如何に依りはは 人教を如何に依りはは 外官軍一日如何に依りはは 名滿一里如何に依りはは
如何に依りはは 如何に依りはは 如何に依りはは 如何に依りはは 如何に依りはは 如何に依りはは

とある人救を捕へ強劫するものあり其の身は死に絶えしを
始に難窮の狀に於て賊軍大率押寄るといふに及んで八坂を
押寄るといふに候に連中皆反終夜子天荒を引お侍る者今
以石尋後信とて入警當時に体息心神を休む事とて精力
續きし事とて其口曰信とていふ

茲に藩兵界を侵入とて皆ひ度強を奪掠せんとの誓ひ
も有りと申進人救揮お一日市へ一人井口は一人峠村
クマ急へ一人新へ三人人解の云を都へいふ
宮内村へ井伊とて先子一隊揮お大津村とて二里鐘とて他別哨屋
又日市 伯耆守松次人救とて夕村へお渡りて去る者賊を揮寄

伯耆守松次人救の防戦絨紋由流しは峠村へ別子絶お
徳島別口と大原とて備へ有るといふに蓋し藩兵とて弱く候に足
るはとの候に有るに未しを由流しは強き日取懸念者候とて不
堪尚主嶋とて上と信候云

六月廿二日

序
戸田助三郎

賊兵が洗伐助三郎家来りて方中村の由渡りて処に候に
緘云々奉砲及いふとて子言りて一回石指身命拾ふ者
奮苦戦遂に待利に候一匹に事とて信に清治法者とて有

又、此を為戴は了後、

六月

伊神 戸田助三郎家来

此中如大野村戦年、長格が奮發勇戦跡、大砲方、
志別るも御勝利あり、是、事、昂日大坂表、中、行、了、後、知

一、願

六月

六月廿五日 戦事、中、布、出

今、亦、考、言、す、中、時、之、他、戸、亦、多、く、射、官、糧、以、積、也、一、也、子、逃、入、投、掃、也

一、護、傍、を、予、之、物、系、織、云、西、也、之、方、山、之、上、也、是、リ、大、中、砲、列、受、也、予、之、
射、計、方、も、向、如、也、却、一、防、戦、仕、た、付、之、以、織、之、退、還、中、の、信、之、官、糧、
亦、以、別、系、之、物、を、彼、亦、取、傷、之、也、予、亦、之、一、方、亦、其、教、是、也、是、
以、布、中、上、之、上

六月廿五日

戸田助三郎家来 戸田信三助

一、長、防、二、之、固、へ、左、之、通、招、也、は、ま、き、一、官、軍、中、の、教、一、も、亦、也

六月

一、け、度、也、子、の、人、数、を、長、向、ら、せ、し、大、信、又、子、若、中、之、た、ら、也、
亦、信、之、所、之、由、之、也、若、人、物、之、を、也、一

二義 津裁許を遂行す一却る若狭又子の罪を主犯
と爲る所は若狭人を主と誅戮するを主下の爲を思ひおぼ
ゆるもの一切の捕はる事

一一旦悪人の能くとりて先此を悔して改業するものハ其罪
を免びつゝ一其後若狭人を訴ある所おのくハ此處を主
と爲る事

一百姓町人多ハ一切の捕はるる安穩なる産業といふ事
生の通り人ほへ事

但軍の捕はるる人を怪家致しぬと堂へ送せ居る事
右通内務省へ同く人氏未だ定むる人ほへ事

二方橋津を若狭作事月々おぼえ 松平下総守

系大坂迄おぼえ十九日 別子能記る人

長崎迄若狭近目おぼえ 右所免長別子 河井若狭守

長別子若狭國口 牧中備前守

日 日 古白おぼえ 青山左衛門守

日 日 日 松平丹波守

日 日 日 内蔵忠後守

日 日 日 松平徳政守

別子能記る人
河井若狭守
牧中備前守
青山左衛門守
松平丹波守
内蔵忠後守
松平徳政守
辰登和介守
小川町三番守若狭人

極子の入海島に諸書あり一は古名古名を記人姓来不
致如との山等果也又陸路諸地雷火垣込あり起る海
島との堤原別は是と定立ふ支起る古名と道中古名と
は修程差ありは海に比程身より事如る定立る事
中故田沃田言田下今尾海島と姓来り予予是以故之
又古大垣の形と事名より古より事なり

西表
古月古の御城古等
予方其の役中より事あり

河部古の役

源氏 作付勢居りあり

各代 久松澄正

其の役より三子石

各代 阿部甚吉

河部古の役中より事あり
方は先達の役中より事あり
指方石より事あり
納戸役 津免あり

各代 松本修正

予方其の役中より事あり

修是子

松花志于也

各代傳口吳他也

又修是後中石以而之養也 有之 有源后と作付替居

作付字替居之養也 江口道之字 へ下 柳之序と 作付是之村

智之 作付

右世中少於井上河内与是松平縫殿孫列在河内与中後大目付
有言河内波者以月付山口内通也 誠ス

一 右同所城之字

松平方也 中世也之付字

大和川裁家安武公後能村河内へ何志者不知也 且十人其集
氏也 亦數祀坊之付人 教是也 治上 臣捕方中付也 也 年

松平大和身

松平大系系中世也 當付之字

農民一撥降起給似之 武列新居引又町押掛之 起之 付
陣屋人 教揮出 也 制也 起 起 道 具 而 持 也 也 付 交 許 人 教
指也 也 年

松平大系之免

後也 多也 朝 頁

日 市 守 弟 須 茂

武州族又多農氏其多人殺饑饉不獲遂行甲別働是
以代及江川をたると子附と代共出陣と云々
人子と云捕討を傷と云々彼地と押取と巨細と云々

近原佐右
押田辰吉

武州族又多農氏其多人殺饑饉不獲遂行甲別働中
他と徳谷と云々出陣と云々河津渡河と云々急進と云々彼
地と押取と巨細と云々

六月十日 津城と云々
今般長河津征伐に付武州表へ軍糧出陣米穀新也云拂

度々越々子多りる土地有候と云々
二お射を以て莫後り候と云々
右と通去二日於大坂お駕り候と云々

五月十日

五月十日 河津村菅村との名を致す
寡君多年忠臣信義今更不侍者也
敵加之に我使を縛りて討討と唱す
菅原常良向全以て奉誣

天朝歎幕府敢而固家大逞其力天人之所嚮也己之小
澗川大島固塊彼之暴劫彼之失以憤激之我多天恩以
浴一義者不裁天所奉義之上上为天幕下之為人又
子生民計生之喜之也

丙寅五月

長門國膺懲隊

友田村之集名

- 一ヶ平八挺 一モルヤン二挺 一海軍 一又入了一刀指本程
- 一強言釣燈上座一中柄竿並本 一玉葉集 一扇 一床几 一脚
- 右之加中及之 豊村河津市村より致事也
- 一石籠八人 山崎名三人 他首ナシ 豊田河津能為傳原以之と袖中ニ

但一泊四斗指 幸う鹽坂者一月 四斗指後手修

大野の津原之通

今古言言付通地声 亦少以府官糧少積蓄一も速人救揮却
復帯子年然地織云 而少之山と云し 亦他列受打掛は付以方
亦も同様也 一防我仕た付織云 追退中少少之官糧許出亦
今言其を彼亦居場之義 亦少少以府官糧少積蓄一も速人救揮却
亦も同様也 一防我仕た付織云 追退中少少之官糧許出亦
亦も同様也 一防我仕た付織云 追退中少少之官糧許出亦

六月十日 松平徳政者及亦居

去月十日八代島普門吉色歌云 集之巻亦少少以府官糧少積蓄一も速人救揮却



文之類

十

十

松平源政守

相限而後分付入之矣 公急海陸軍以人數多令上先子人數
 津和地急如規者下法急分抄試及以地款云云急不中府上陸物足
 者如地款云懼伏山上四ヶ所合方砲臺及以村人數操結砲我致
 款云敗之進之等及以村人數引揚月而岸能致一十言善門也
 年緝法以地款云進之等及以村人數引揚月而岸能致一十言善門也
 文之類

十 買八代村辺と 揮常乃 及 地 殘云 三人 斗 陽 列 地 方 へ 進 云 以
 越 三 村 之 急 乃 村 へ 役 人 有 乃 掃 以 之 説 云 急 乃 今 火 之 新 燒 跡 一 以 村
 民 有 乃 令 教 有 乃 施 中 以 以 臣 以 乃 急 乃 之 以 上

